

自己評価結果公表シート（令和3年度）

学校法人育保学園 バンビーニくまのだ

1. 本園の教育・保育理念

「一人ひとり」の個性が輝く毎日を送る事ができるような環境を整え、様々な経験と遊びを通じて健全な心身の発達を助長し、情操豊かな子どもの育成を目指す。

2. 本園の教育・保育のねらい

- ・自ら考え、行動する力を育てる。
- ・人を思いやる気持ちを育てる。
- ・集団生活を通して、規範意識を持つ力を育てる。
- ・新しいものを生みだそうとする力を育てる。

3. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・保育者の資質の向上
- ・保育環境の充実
- ・コロナ禍における安全管理

4. 評価項目の達成及び、取り組み状況

評価項目	取り組み状況・結果
○保育者の資質の向上 ・一人ひとりの子どもの成長に沿ったねらいを職員間で共有する ・自園や自己の役割を見つめ課題を見つける。又、研修に積極的に参加する ・子どもの姿や成長について保護者が理解を深める機会を作る。	・ミーティングや職員会議等で子どもの様子を伝え合う事で、一人ひとりの子どもとの関わり方を見直したり、新しい子どもの姿を発見できたりした。又、一人の子どもについて課題を見出し関わる事で、子どもの成長に繋げる事ができた。 ・自己チェックリストを元に学期毎に職員一人ひとりが目標を決め、自身の保育に対して日々反省や改善を行ってきた。今後も継続していきたい。 ・自園で職員一人ひとりの役割を自分で考えるだけでなく、保育者同士でも話し合う事で目標や課題が明確になり、具体性を持って行動に繋げる事ができた。今後も継続していきたい。 ・オンライン研修の情報を職員内で共有する事で、多くの職員が積極的に受講する事ができた。ただ、研修の受講内容に偏りがあったので、今後、いろいろな分野の研修を受講できるようにしていきたい。 ・登降園時の会話だけでなく、写真や動画を使って保護者に子どもの様子を伝える事で、成長について話す機会も増え、保護者、保育者間で子どもの成長を喜び合う機会になった。又、保護者が保育室に入れない状態だったが、動画を見せる事で実際の保育環境が確認でき、安心感を持ってもらう事ができた。
○保育環境の充実 ・子どもの成長に沿った環境を整え心身共に継続的、発展的に遊ぶ。 ・身近な自然に触れる機会を作る	・戸外遊びについて、定期的に環境を変えていく事で、体を動かす遊びや自然物を使っての身近なごっこ遊び等、いろいろな遊びを楽しむ事ができた。又、遊びについて毎日のミーティングで話し合う事で、改善点や危険箇所等を伝え合い、翌日の遊びに繋げていくようにした。 ・室内環境の中に毎日体を動かせるコーナーを作る事で、子ども達が一つのコーナー遊びとして楽しむ事ができた。ただ、保育者やクラスによって環境にばらつきがあるので、職員会議やミーティングで改善点等話し合う機会を作りたい。
○コロナ禍における安全管理 ・新型コロナウイルス感染防止対策の実施と環境整備。	・玩具や施設の消毒チェックリストを作る事により全職員が意識し、日々感染対策に取り組む事ができていた。感染状況によって、玩具の種類を変更したり、保育室の利用方法を変更したりした。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・保育者の資質向上 ・保育環境の充実 ・子育て支援	・教育保育環境ガイドラインを活用し日々の子ども達の遊びや環境を振り返り、課題や改善点を見つけ、実際の保育に繋げていく。ガイドラインに沿って遊びや環境を見直す。 ・外部の研修や園内研修等、様々な分野の中で特に自己が苦手とする分野の研修には、積極的に参加をする。 ・子どもの姿や成長について保護者の方の声に耳を傾け、寄り添えるようにする。 ・子ども一人ひとりの遊ぶ様子を見ながら、子どもの成長に沿った遊びの環境を整えると共に、継続して遊ぶ事で更に遊びが発展できるよう援助していく。 ・身近な自然を観察したり、植物を育てたり、いろいろな生き物に触れたりする事で、自ら興味や関心が持てるようにする。 ・引き続き感染対策をしながら、園庭開放の実施や保護者同士の交流、保護者と職員の会話や、子育て相談ができる場所を設ける。